

指定研究村における必需物資配給実績調査報告（三）

福岡縣研究村に於ける調査報告

堤 元

目 次

調査部落の概況	一、	消費財	二、
(一) A村の概況	(一) a部落に於ける農家必需物資配給の実態	(1) 衣類	(1) T村の概況
(二) a部落の概況	(二) 概観	(2) 日用品嗜好品	(2) T村に於ける必需物資配給実績の概況
(1) 肥料	(1) 生産財		
(2) 農業薬剤	(2) 肥料		
(3) 農機具	(3) 肥料		
(4) 種苗	(4) 肥料		
(5) 家畜飼料	(5) 肥料		
	(6) 肥料		
	(7) 肥料		
	(8) 肥料		
	(9) 肥料		
	(10) 肥料		

(11) 油類

一、Y部落の概況

二、Y部落に於ける必需物資配給實態調査の分析

- | | | | | | | | |
|--------|--------|----------|-----------|---------|---------|------------|---------|
| (1) 肥料 | (2) 飼料 | (3) 農家藥劑 | (4) 種畜、種苗 | (5) 農機具 | (6) 衣料品 | (7) 食糧、嗜好品 | (8) 其の他 |
|--------|--------|----------|-----------|---------|---------|------------|---------|

調査部落の概況

(一) A村の概況

農村必需物資配給實態調査の對象として、福岡縣八女郡A村a部落を選んだ。a部落の概況を説明する前提として、先ず村の概況を述べておこう。

A村は福岡縣の東南端矢部川の上流に位し、熊本縣鹿本郡に隣接している一山村である。矢部川を挟んで平坦村の代表とも稱すべきB村と相隣接している。A村は東西一里三町、南北二里七町にして總面積一・六二万里的極めて狹隘なる一山村にしく、久留米市より南東に約二四軒、矢部線黒木驛迄三軒の間にある。

村は郡内に於いても山間部に屬し、造林地がその大半を占むるも矢部田代の兩川並びに鹿子生谷に沿うて幾分平地が拓けてゐる。

指定研究村における必需物資配給實態調査報告

第一表 村面積 (昭和二年二月一日調査)

總面積	耕地		林地		官有地
	宅地	田	畑	茶園	森林
一・六四一・六五〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇
一・六四一・六五〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇
一・六四一・六五〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇
一・六四一・六五〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇
一・六四一・六五〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇
一・六四一・六五〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇
一・六四一・六五〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇
一・六四一・六五〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇
一・六四一・六五〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇	二二・〇

本村の約八〇%は、杉、松、檜、櫟等の造林地並びに竹林によつて占められ、そこから生産される各種木材、竹材、筍、栗、椎茸、串柿、茶、蒟蒻、楮等の林産物の産額は農村インフレと稱せられる現在相當多額にのぼり、村農業會經營並びに個人經營の筍罐詰工場、製糸工場も二、三に止まらず、農家のそれ等商品の生産物への依存度は極めて高い。耕地は矢部川流域並びに田代、鹿子生兩川に沿うて拓けるのみにして、その總面積三六八町歩、村總面積の約一四%に過ぎざるも、造林豫定地並びに造林地に於ける所謂切替畑が相當に廣い面積を占め、農家のそれ等畑地への食糧依存度も亦極めて高く、生産物の一部は供出されるし又附近町村消費者へ販賣されている。そこに作付される作物は、夏季は甘藷、里芋が主たるものであるが、外に陸稻、粟が多少栽培されている。

第二表 耕地利用状況 (昭和二年二月一日調査)

水田	總耕地	麥作	麥作	麥以外の作物栽培	作付せぬ耕地
一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五
一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五
一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五
一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五
一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五
一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五
一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五
一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五
一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五	一・一〇五

普通畑	果樹園	桑園	茶園	計
一五四・八	八六・三	二・六	一四・三	三六・三
二五・〇	六・三			一七・三
一四四・〇	一・六			一四六・〇
一〇・〇				一四・五
一三〇・〇	八〇・〇	二・六	一四・三	三八・三

裏作としては主に馬鈴薯、麥、蕎麥、大根等が栽培されている。畑地は全耕地面積の約七〇%を占むるも、その中で四〇%は柑橘園、茶樹園にして、残りの六〇%が甘藷、麥、馬鈴薯、里芋、その他蔬菜栽培に利用せられている。水田は乾田がその大部分を占め、殆んど二毛作が行われている。濕田は山間の谷間に約十町歩を占むるに過ぎず、水稲のみの一毛作である。

戦時中に於ける極度の勞力不足と金肥の減少は遂にそれ等濕田の放棄を促進し、終戦直後までの二、三年間は年々二町歩前後の田が作付を放棄され杉の植林が行われ來つたが、それ等濕田の減反は、限界生産地として極めて低生産性の水田にして、村の産米生産量並びに供出量に對して左程大きな影響は與えていない。

然るに終戦後軍需工場の潰滅と、復員引揚者等の激増に依る勞働力の増加と、農地改革に依る土地買収を恐れて開墾耕作者が激増しつゝある現況である。乾田はその殆んど全部が米麥作にして、他の作物の栽培は殆んど行われていない。又畑地に於ける陸稻の栽培は約五反歩程度で取上くべき程のものはない。

第三表 職業別世帯數及人口（昭和二十二年二月一日調査）

職業別	世帯數	人口	内	
			男	女
農業	三九戸	二四三五人	一、二七二人	一、一五四人
工業	二〇	五五	二六	三三
商業	三	一五	六	九
其他	五	一八	七	一〇
引揚者	八	五	三	二
計	四三	二七三〇	一、二九二	一、四三三

昭和二十二年二月一日現在の村調査に依る總人口は二、七三〇人、總戸數は四七二戸にして、その職業別構成に依つて理解し得る如く、農業を主業とする戸數が三九〇戸で壓倒的多數を占め、他は鍛冶屋、配給店等の工業、商業等に從事する者が一〇數戸、會社員、無職等五一戸を數えるのみにして、引揚者は、本家或いは小作人より土地を分譲して貰うか實家で農業に從事している者が大部分である。その中で二十二年六月三十日現在に於ける受配人口は一、八四三人にして村人口の約六八%を占め生産農家も總人口二、四二五人中一、三七六人の受配人口を數え、飯米を確保し得る比較的零細規模農家が、農家總戸數の五七%にも及んでいる。その間の事情は更に第二種兼業農家即ち農業を副業とする農家が七五戸に及ぶこと、並びに耕作廣狹別農家戸數を検討する事に依

つて更に判然たり得るであらう。

第四表 受配戸数及人口 (昭和二年六月三〇日現在)

純消費者	戸数	人口
農家	一一三	四六七
計	二二二	一、三七六
	三三五	一、八四三

(註) 純消費者中には極零細農家を含む。

第五表 専業農家別農家戸数 (昭和二年二月一日現在)

専業	戸数
第一種	一八一
第二種	一二四
計	七五
	三八〇

第六表 耕作廣狹別農家戸数 (田、畑)

(昭和二年一月三十一日調査)

反別	戸数
一反	一三反
二反	一三反
三反	一三反
四反	一三反
五反	一三反
六反	一三反
七反	一三反
八反	一三反
九反	一三反
十反	一三反
計	一三反

即ち三反以下耕作の所謂飯米取得型的零細規模農家が全米作農家の五三%に當り、それ等農家群の一戸當平均耕作反別は、僅かに一反八畝と云う狹隘さで、主食糧に關する限り、その殆んど大部

指定研究村における必需物資配給實績調査報告

分の農家が家族員一ヶ年分の食糧を確保し得ざる状態である。詳しくは第七表の統計的資料について見られたい。更にそれ等

第七表 耕作廣狹別農家の生産

(昭和二年二月一日調査)

反別	戸数	人口	耕作面積	要保有量	實保有量	生産高	甘食保有量	諸算米換
一反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反
二反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反
三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反
四反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反
五反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反
六反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反
七反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反
八反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反
九反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反
十反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反
計	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反	一三反

生産農家の月別受配戸数を検討するに、新米穀年度の出發點たる

指定研究村における必需物資配給実績調査報告

十一月末に早くも一八戸の受配農家を数え、一ヶ月毎に増加し、二月末一六%に當つてゐる農家が七月一日現在に於いては五七%とその半数以上に及んでゐる。しかも年間を通じて保有米のみに依存して生活を續ける農家は三五戸にして、全農家の僅かに九%と云ふ心細い状態にある事は本村農家の零細性と共に如何に低生産地帯なるか一應察知し得るであらう。ただ本村の自然的、地理的條件は正畑並びに切替畑が水田面積より以上に廣い面積を占め、其處からの生産物は米麥不足の缺を補う意味で重要な意義を有するものであらう。即ち、正畑のみを含む農家の耕作廣狭別構成を見るに、三反歩以下耕作農家は二六%に過ぎざるに反し、一町以上經營農家が二四四戸で六六%に及び、特に三町以上と云ふ當地方に於いては相當大規模經營農家が一四戸を占めることに依つても其間の事情を察知し得るであらう。其他それとほぼ匹敵する切替畑を確保していることを附け加えておこう。

第八表 生産農家の月別受配數

(昭和二年七月一日現在)

月 別	戸 數	人 數
一 月 末	一 八	一
一 二 月	一 九	一
一 月	三 七	一
二 月	六 三	三 七 一

次にそれ等農家の男女別、年齢別構成を見るに、女子は男子よりやや多く、特に成年者に多い。

第九表 農家保有基準量

年 齡	一 月 當 年	年 間
一 一 七 歳	二 〇 〇	七 三 〇
八 一 一 五 歳	三 〇 五	一 二 〇 七 七
一 六 十 歳 以 上	四 〇 六	一 六 〇 七 九
平 均	四 〇 〇	一 四 〇 六 〇

(註) 一、玄米換算石とす。

二、保有米は米、麥、諸類、雜穀の綜合保有とす。

三、綜合保有率は過去の消費実績等により之を定む。

四、一日當り平均主食糧は三・六合、〇・四合は加工用その他とす。

第一〇表 農家戸数と人口

(昭和二十二年二月二日現在)

農家戸數		三八〇戸 (中成年男子の居な い農家戸數一三)			
性別及 年齡別	男		女		
	未成年者	成年者	未成年者	成年者	
家族員數	四二二 _人	七七二 _人	四三一 _人	八三一 _人	
一戸當り	一・一	二・〇	一・一	二・二	
平均	三・一		三・三		
總平均	六・四				

昭和二年度産米供出方法は原則として政府の指示にある如く、保有米方式を採用することになりたるも、農家の水田耕作反別の平均が僅かに三反三畝と云う零細さで、しかも山間部に位置し土地生産力の低い本村に於いて、保有米方式を採用するときは、僅かに三六戸の供出餘力ある農家で供出割當を引受けるか、或いは保有米に相當喰込んで供出餘力農家を作成するかと云う事になるであろう。然るに現在の食糧需給の状況下では前者の採用は殆んど不可能にして、結局保有量を確保し得ざる零細農家にも割當ざるを得ない結果になつてゐる。

又土地所有の現況を概観すれば村内耕地のうち小作地は六七・

指定研究村における必需物資配給実績調査報告

一町で二六％に當り、それが在村地主四八戸、不在地主二〇戸に依つて分割所有され、水田が二二六戸、畑が二五三戸の農家に分割耕作されている。地主の平均貸付地は一戸當り一町に満たない。

第一一表 土地所有状況(田、畑共)

在村地主	不在地主
四八戸	二〇戸
五七・一町	一〇・〇町

(註) 一、貸付地を有するものは全部含む。

二、在村地主は全部自作している。

三、村内自作地 一九四町七反

四、村内耕地 二六一町八反

尙前述せる如く本村の山林面積は八〇％を占め、その中で薪炭林としての雑木が二八％、松林が二六％を占め、杉、竹林も相當面積を占めている。竹藪中には孟宗竹の八〇町歩を含んでいる。特に本村山間部は地味肥沃にして適當なる温度と湿度に恵まれ、それ等林野より生産される生産物も亦相當多額に上つてゐる。

第一二表 造林種別面積 (昭和二十二年二月一日現在)

杉	松	檜	雑木	竹
三九〇町歩	五〇三	二八	五五八	一七三

指定研究村における必需物資配給実績調査報告

一九四

其 他	三三八町歩
計	二、〇〇〇

第一三表 林業自営世帯及私有森林管理者数

一、個人有林の管理者数				二八六戸		
二、製炭業経営者数				専業	兼業	計
A、自ら製炭に従事する世帯 B、家族員中製炭に従事する者 C、製炭夫を雇傭して製炭を行う者 D、會社その團體にして製炭経営する者	二戸			一	一三	一五
	七人			一	一三	二〇
	一戸			一	一	二

(二) a部落の概況

次に實態調査の調査対象となつたa部落の概況を述べよう。當部落は田代川より矢部川に跨る村の東北寄りの一部落にて總戸數七二戸中農家五二戸、他は醫者、駐在所、鍛冶屋、會社員、疎開者等で、即ち村交通の要點に位置する關係上、種々雑多な職業より構成されている。しかしそれ等の非農家群も、大部分が切替畑等を多少とも耕作し甘藷、里芋、馬鈴薯、蔬菜類等の食糧確保に努力している。

部落の大半は平坦部に位置するも、一部(一〇戸全部農家)は山間部の谷合いにあり、專業的精農家増集し、農林業生産に關す

る限り本部落の支柱として、農業生産並びに供出の大半を背負い
る現状である。當部落は又背後に山を控へ各種林産物、畑産物
の生産出荷も相當多量にのほり特に筍、蜜柑、串柿、茶等は特産
物としてあげ得るであらう。部落總人口は三〇一人にして一戸當
五・八人を擁し、二二年六月現在に於ける四・七人に對比し一ヶ年
に一戸當り一・一人の増加を示している。これは主として終戦後
復員、引揚者、軍需工場よりの歸郷者等に依るものである。

第一四表 戸數 (昭和二二年六月一八日調査)

a 部落	總戸數	農家戸數	非農家戸數
全 村	七二戸	五二	二〇
比 率	四七・二%	三九・〇	八二
	一五%	一三	二四

第五表 戸數の比率 (昭和二二年六月一八日調査)

對 比	全 村	a 部落
農 家 戸 數	八三%	七二%
總 戸 數	一七	二八
非 農 家 戸 數	二四	三九

第一六表 農家非農家人口比率

(昭和二十二年六月一八日調査)

比	全	部
村	落	
率	總數 一戶當	總數 一戶當
一三・八%	二、七三〇 五・八%	三六七人 五・八%
一二・四%	二、四二五 六・〇%	三〇一人 五・八%
一二・七%	三〇五 三・七%	六六人 五・八%

第一七表 非農家職業別構成

(昭和二十二年六月一八日調査)

井	醫	日	土	鍛	集	會	
戶		備		治	配	社	
掘	者	取	工	業	員	員	
一	一	二	一	一	一	三	戶
計	無	巡	洋	農	自	小	
			服	地	動	賣	
			屋	委	車		
				員	運		
				書	轉		
				記	手		
	職	查				業	
二	四	一	一	一	二	一	
〇							

第一八表 a 部落の農家構成（水田のみ）

(昭和二十二年六月一八日調査)

計	小	小	自	自	地	
、		自	小		自	
	作	作	作	作	作	
七	三	一	一	四	一	一一反
三	二	三	二	三	二	二三反
二	三	三	三	二	一	三五反
三	一	二	一	一	一	五七反
一	一	一	一	一	一	以上七反
五	七	八	六	九	二	計

農家戸數は五二戸にしてうち自作（三六％）小作（三三％）のものと各農家群に凝集し、農地改革の進捗と共に地主兼自作は二戸を數えるに過ぎない。尙現在農地改革の進行途上にあつて、當地方に於ける地主の保有面積が八反歩と規定された關係上、舊來の觀念にたる地主なるものゝ存在がなくなり、昨年まで五戸を數えた純地主が存在しなくなつた事を附言しておく。次に經營規模別には一三一反（水田）耕作農家が三〇戸を數え、農家總戸數の五八％を占めて最も多く、これに次いで三五一反二戸、一反以下七戸、五七一反三戸の順位になつてゐる。七反以上經營農家に至つては僅かに一戸を數うるに過ぎない。次にこれ等農家群の階層別平均耕作反別を検討するに、全農家の平均水田耕作反別は僅かに二反七畝と云ふ零細であつて、その中でも特に小作農家一七戸

の經營面積は狹隘で平均二・一反にすぎない。自小作、自自作農家は夫々四・一反および三・八反で當部落としては比較的高い水準にある。更にそれ等島家群の家族員數を檢討して見よう。階層別には小作の六・四人を最高とし自作、自小作は各々五・八人を擁し、地主兼自作にあつては三反歩未満農家二戸のみにして、僅かに三・五人に過ぎない。規模別には耕作反別が増加するに従つて漸増し、七反未満農家の六・七人を最高とし、一戸あたり平均員數五・八人を示標している。その中で主業として農業に従事する者の分布を檢討すれば、地主兼自作と自自作の三・五人を最高とし、小作に於ては二・七人と最少の勞働力を保有するに過ぎない。

第一九表 平均耕作面積 (昭和二十二年六月一八日現在)

階層別	反別	〇一反	一一反	一・五反	三・五反	五・七反	七反以上	平均
地自作		一	一	一	一	一	一	二・五
自自作		一	一	一	一	一	一	二・三
自小作		一	一	一	一	一	一	四・一
小自作		一	一	一	一	一	一	三・八
小作		一	一	一	一	一	一	二・二
平均		〇・七	二・七	四・三	六・七	七・三	二・七	

第二〇表 家族員數 (昭和二十二年六月一八日現在)

階層別	反別	〇一反	一一反	一・五反	三・五反	五・七反	七反以上	平均
地自作		一	一	一	一	一	一	三・五
自自作		一	一	一	一	一	一	三・五
自小作		一	一	一	一	一	一	三・五
小自作		一	一	一	一	一	一	三・五
小作		一	一	一	一	一	一	三・五
平均		〇・七	二・七	四・三	六・七	七・三	二・七	

第二一表 農業主業者 (昭和二十二年六月十八日現在)

階層別	反別	〇一反	一一反	一・五反	三・五反	五・七反	七反以上	平均
地自作		一	一	一	一	一	一	三・五
自自作		一	一	一	一	一	一	三・五
自小作		一	一	一	一	一	一	三・五
小自作		一	一	一	一	一	一	三・五
小作		一	一	一	一	一	一	三・五
平均		〇・五	六・〇	五・八	五・九	六・七	六・〇	五・八

階層別	反別	〇一反	一一反	一・五反	三・五反	五・七反	七反以上	平均
地自作		一	一	一	一	一	一	三・五
自自作		一	一	一	一	一	一	三・五
自小作		一	一	一	一	一	一	三・五
小自作		一	一	一	一	一	一	三・五
小作		一	一	一	一	一	一	三・五
平均		一・六	二・八	三・〇	三・四	五・〇	五・〇	三・二

經營規模別には一反歩未満農家は農業主業者僅かに一・六人にして、經營面積の擴大に従つて漸増し、五反歩以上農家は五・〇人の主業者を保有していることを知るであらう。

以上部落の概況について主として昭和二十二年調査資料に基いて報告してきたが、本調査が昭和二十一年度を對象としているため前年度の調査資料を若干かがけておくこととした。兩年度の資料を比較してみると、農家經營についてはもとより大きな變化

はないが、たゞ農地解放の進行に伴う變動の跡が窺われる。即ち二十一年度に於ける各農家群の作付面積は、自作、自小作により廣く、地主兼自作、自作にあつては極めて狭い。規模別には三反以下と三反以上經營農家とに割然と分離して、三反以下農家の零細性を標示している。一戸當平均耕作面積が二・七反の位置に

第二二表 水田作付面積 (昭和二十一年度)
(昭和二十一年七月一五日調査)

階層別	反別		階層別	反別	
	自作	自小作		自作	自小作
地	〇・一	一・三	地	〇・一	一・三
自	〇・二	一・九	自	〇・二	一・九
自小	一・一	一・六	自小	一・一	一・六
小	一・二	三・六	小	一・二	三・六
小	一・二	四・七	小	一・二	四・七
平均	〇・六	四・三	平均	〇・六	四・三
		五・七			五・七
		七・六			七・六
		二・七			二・七

第二三表 全村に對する部落の生産量、供出量
(昭和二十二年六月一八日調査)

a 部落	耕 地		作付耕地 (面積(麥))	生 産 量	供 出 量
	水田	畑			
全村	一・一〇五	二・七八	一・一〇五	二・七八	一・一〇五
比率	二・九	八・一	二・五	二・五	一・四
	二・九	八・一	二・五	二・五	一・四
	二・九	八・一	二・五	二・五	一・四
	二・九	八・一	二・五	二・五	一・四
	二・九	八・一	二・五	二・五	一・四
	二・九	八・一	二・五	二・五	一・四
	二・九	八・一	二・五	二・五	一・四
	二・九	八・一	二・五	二・五	一・四
	二・九	八・一	二・五	二・五	一・四

指定研究村における必需物資配給實績調査報告

第二四表 米生産高 (二十一年度)

階層別	反別		階層別	反別	
	自作	自小作		自作	自小作
地	〇・一	一・三	地	〇・一	一・三
自	〇・二	一・九	自	〇・二	一・九
自小	一・一	一・六	自小	一・一	一・六
小	一・二	三・六	小	一・二	三・六
小	一・二	四・七	小	一・二	四・七
平均	〇・五	四・三	平均	〇・五	四・三
		五・七			五・七
		七・六			七・六
		二・七			二・七

ある事は、二十一年度、二十二年度も變りはない。その中で特に目立つた現象は、小作と自小作農家の經營面積の縮小と、それと對蹠的に地主兼自作、自小作農家の擴大であらう。このことは農地改革の途上にある農村として、食糧事情の逼迫化に依る自給態勢並びに土地の確保或いは復員、引揚者、離職者に依る自作地化が、世上所謂「土地引上げ」として結果したものであらう。

一、a 部落に於ける農家必需物資配給の實態

(一) 概 観

昭和二十一年度に於けるa部落に對する農家必需物資の配給状況を品目別に詳述するに先立つて、その配給實績總量を綜合的に述べれば第二五表乃至第二七表のごとくである。

第二五表に示すごとくA村に對する肥料の配給量は昭和十八年

指定研究村における必需物資配給実績調査報告

一九八

以降十九年、二十年と激減している。これを硫酸についてみれば、二十年度は二、六九〇貫で十八年度のはより四割近くに低減したが、二十一年度に於ては五、〇六二貫に増加し、六割以上に恢復している。もとより充分とはいえないが、前二年度に較べれば

改良の跡が著しい。a部落についてはその配給量の年度別増加を示す資料がないが、その變化は村とほぼ同じ傾向を辿つたものとみてよい。a部落とA村とを比較するに、配給肥料の品目別構成がやゝ異つてゐる。

第二五表 全村に對する肥料配給実績(量)

年度別	肥料名	昭和十八年	昭和十九年	昭和二十年	昭和二十一年
	硫 安	八、三三〇・〇	三、七六〇・〇	二、六九〇・〇	五、〇六二・四
	石過燐酸灰	四、一〇〇・〇	一、一三〇・〇	一、一四〇・〇	二、一〇三・六
	石 素灰	三、七六〇・〇	四、一〇〇・〇	一、七六〇・〇	三、二四六・一
	油 菜 粕	—	—	—	一九三・三
	落花生粕	—	—	—	三九・一
	骨 粉	—	—	—	八九・三
	加鹽里化	—	—	—	一〇〇・〇
	加燒里成	—	—	—	三九・〇
	加苦里汁	—	—	—	二〇・〇
	石 灰	—	—	—	七、〇四〇・〇
	化特 成殊	一、五三〇・〇	一、七〇〇・〇	一、五三〇・〇	一、五三〇・〇

第二六表 a部落に對する肥料配給実績(量)

年度別	肥料名	昭和二十一年
	硫 安	六九・四
	石過燐酸灰	二九四・四
	石 素灰	三五・三四
	油 菜 粕	六六・五
	落花生粕	四一・四
	骨 粉	二二・四
	加鹽里化	一〇六・一
	加燒里成	—
	加苦里汁	六〇・〇
	石 灰	一、〇四〇・〇
	化特 成殊	—

a部落の受配肥料中には石灰の比重が村全體に比して著しく高いことが注意される。

肥料以外の配給物資についてa部落をA村に比較してみれば第二七表のごとくである。品目によつて兩者の割合はがなり區々

で、「その他衣料品」についてはa部落はA村全體の五〇%の配給をうけているが「鹽」に関しては僅かに一〇%を占むるにすぎない。以下品目別に部落一戸平均の受配量を調べてみよう。

第二七表 a 部落配給物資表 (昭二一・四—昭二二・三)

衣 料 品					配 給 品 目					
衣 類 生地類 織維類 雜貨類 其他										
作業衣、外套、其他	下着類	靴下、足袋、手袋	その他(毛布、フトン)	生地類	蚊帳類	絲子類	帽子類	綿子類	その他	其他
7點	7點	31	0	265	0	5	8	20	13	3
對 比	全 村	278點	23	1,412	0	15,437	4	74	94	6
對 比	全 村	7%	6%	17%	5	35	3	4	6	4
食 料 品					配 給 品 目					
調味料 醬油 食鹽 酒 味出 鯨 砂 マ 口										
味噌	油	油	用	い	り	と	糖	チ	ク	ソ
174	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174
對 比	全 村	278點	23	1,412	0	15,437	4	74	94	6
對 比	全 村	7%	6%	17%	5	35	3	4	6	4

指定研究村における必需物資配給実績調査報告

二〇〇

ち三一五反自作、五一一七反自作、三一五反小自作と云う順位にある。

之を要するに三一五反、七反以上の小自作が肥料の配給量及び配給外購入量において斷然首位を占めている。この階層は供出においては、實保有量と要保有量がほぼ平衡し或いは米麥の供出、特に米供出に於いては最高位を占めている。且つ米生産に於ける反當收量も最高を示し、農業稼働員數と家族員數との均衡並びに勞働生産力に於いては階層別に最高位を示している。又農業資本就中農機具並びに牛馬の保有量も比較的多く、經營規模擴大化の傾向がみられる。かく生産構造のうちにもみられる進歩性は流動生産財たる肥料の獲得量の中にもよく現われている。

第二八表 配給肥料購入數量（硫酸、過燐酸石灰、加里、石灰窒素）（一戸當平均購入貫數）

	〇一反	一三反	三五反	五七反	七反以上	平均
地自作	一・〇六六	一・〇六六	一・〇六六	一・〇六六	一・〇六六	一・〇六六
自作	三・六五〇	四・二七三	三・八七二	三・〇〇〇	一・〇六六	三・〇〇〇
小自作	一・七〇〇	四・七三三	一・〇六六	一・〇六六	一・〇六六	一・〇六六
小自作	九・九〇三	五・〇〇〇	四・一七〇	一・〇六六	一・〇六六	一・〇六六
平均	四・六四〇	二・四四四	六・六六五	四・三九五	四・〇〇〇	三・一七三

第二九表 配給肥料購入費

（一戸當平均購入金額 單位圓）

	〇一反	一三反	三五反	五七反	七反以上	平均
地自作	一・四九八	一・四九八	一・四九八	一・四九八	一・四九八	一・四九八
自作	二・七〇六	三・六六六	三・六六六	一・四九八	一・四九八	一・四九八
小自作	一・四〇六	四・六三三	一・四九八	一・四九八	一・四九八	一・四九八
小自作	四・四〇六	四・六三三	一・四九八	一・四九八	一・四九八	一・四九八
平均	元六四	一・六三三	一・四九八	一・四九八	一・四九八	一・四九八

(2) 農業藥劑

當部落においては農家經濟の基礎を主として商品化率の高い林産物並びに果樹類に仰いでいるために、農業藥劑は農業經營、特に果樹栽培にとつて生産的意義が著しい。ところで農業藥劑の一般配給は皆無であるが、農業會に保有する藥劑を希望購入に依つて特別配給を續けている。それを階層別に検討するに、でも小自作、小自作階層が壓倒的な優位を確保している。即ちこの階層が購入總額に於いて占める比率は全體の六〇%に達し、それは主に畑作物特に果樹類に使用されている現況である。

(一戸當平均購入額 單位圓)

地	自	自	小	小	小	平	
作	作	作	作	作	作	均	
一	三	一	一	一	二	二	〇一反
二	六	一	一	一	六	六	一三反
三	一	一	一	一	三	三	三三反
四	一	一	一	一	一	一	五七反
五	一	一	一	一	一	一	七上
六	一	一	一	一	一	一	平
七	一	一	一	一	一	一	均

一般的配給品は廉價なるも、品質粗惡、能率低く、多くは使用に堪えず、加うるに本部落の如き山間特殊地帯に於いては配給品が平地用品では用をなさない難點がある。従つて農機具については多くは配給外の購入に依存している現状である。

階層別經營規模別の兩視點より之を檢討すれば、階層別には地自作、小自作、小作の順位にあり、規模別には一三反、及び七反以上の兩層が斷然首位を占めている。

茲で特に留意すべきことは地自作、並びに一―三反經營農家の購入額が首位にあることである。それはこのグループの農家の本格的生産意欲から出發するものではなく、從來地主と稱した階層層が農地改革による小作料の金納化と食糧需給の窮迫化から地主手

指定研究村における必需物資配給実績調査報告

作の必要に迫られ、農業用品の蓄積のない新米百姓として農機具を新規に購入せざるをえなかつた事情に由來するものである。又こゝでは農機具といつても所謂、農業用動力、進んだ農業機械ではなく、主として手勞働を補助に足る舊式農器具である。このことは第三十一表の購入金額から判然と看取し得るであらう。

第三一表 農機具開購入費

(一戸平均購入費單位圓)

地	自	自	小	小	小	平
作	作	作	作	作	作	均
一、三五	二五	一	一	一	一〇〇	二四
一、三五	五二	三五〇	一五〇	五五	五五	五五
一	一	三五〇	四三三	八四三	四四四	四四四
一	一	一	六八五	四五六	四五六	四五六
以上	以上	以上	以上	以上	以上	以上
平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均
一、三五	三五〇	二九	四三三	五二	四四	四四

(4) 種 苗

種苗は土地生産力に依存する當地方農民にとつては最大關心事の一つである。その配給についてみるに、自小作、自小作階層が受配量の殆んど大半を占めている。特に自小作農家に於いては配給品不足による配給外購入が相當多量を占めている事は第三三表に依つて明らかに知りうる。なお配給種苗購入費においては特に七反以上經營の自小作農家に最も多く、この層においては閥購入が

指定研究村における必需物資配給実績調査報告

ないことは注目に値する。

第三二表 配給種苗購入費

(一戸平均購入費 單位圓)

地 自 作	自 作	小 作	小 作	小 作	平 均
〇・一反	一・八反	二・七反	一・七反	一・五反	一・五反
一・三反	一・五反	一・五反	一・五反	一・五反	一・五反
三・五反	三・五反	三・五反	三・五反	三・五反	三・五反
平七反	平七反	平七反	平七反	平七反	平七反
七反以上	七反以上	七反以上	七反以上	七反以上	七反以上
平均	平均	平均	平均	平均	平均

第三三表 配給外種苗購入費

(一戸平均購入費 單位圓)

地 自 作	自 作	小 作	小 作	小 作	平 均
〇・一反	一・八反	二・七反	一・七反	一・五反	一・五反
一・三反	一・五反	一・五反	一・五反	一・五反	一・五反
三・五反	三・五反	三・五反	三・五反	三・五反	三・五反
平七反	平七反	平七反	平七反	平七反	平七反
七反以上	七反以上	七反以上	七反以上	七反以上	七反以上
平均	平均	平均	平均	平均	平均

(5) 家畜飼料

11011

家畜飼料の購入量並びに購入額は三―五反の自小作及び自自作に於いて最も多い。この事實はさきにみたごとくこの階層の牛馬飼育数、並びに兎、雞等の所謂小家畜飼育に於ける比重の大きいことと照應するものであろう。

尙地自作の階層の購入高が比較的に大きいのはこの層が山羊、綿羊等の飼育に於いて獨占的地位を占めているためであつて、般的家畜飼育に於いて優位を占めているためではない。

第三四表 家畜飼料閣購入數量

(一戸平均購入數量 單位貫)

地 自 作	自 作	小 作	小 作	小 作	平 均
〇・一反	一・八反	二・七反	一・七反	一・五反	一・五反
一・三反	一・五反	一・五反	一・五反	一・五反	一・五反
三・五反	三・五反	三・五反	三・五反	三・五反	三・五反
平七反	平七反	平七反	平七反	平七反	平七反
七反以上	七反以上	七反以上	七反以上	七反以上	七反以上
平均	平均	平均	平均	平均	平均

第三五表 家畜飼料閣購入費

(一戸平均購入費 單位圓)

地 自 作	自 作	小 作	小 作	小 作	平 均
〇・一反	一・八反	二・七反	一・七反	一・五反	一・五反
一・三反	一・五反	一・五反	一・五反	一・五反	一・五反
三・五反	三・五反	三・五反	三・五反	三・五反	三・五反
平七反	平七反	平七反	平七反	平七反	平七反
七反以上	七反以上	七反以上	七反以上	七反以上	七反以上
平均	平均	平均	平均	平均	平均

平	小	小	自	自
均	作	作	作	作
二、七三	一、六四	一、〇〇	四、〇七	二、一〇〇
一、七七	二、六五	一、九三	一、一〇〇	一、一〇〇
六六	一、一	一、一	一、一	一、一
五	一、一	一、一	一、一	一、一
一、九三	九三	一、九三	四、〇〇	一、一三七

③ 消費財

(1) 衣類（衣料、地下足袋、糸布地等）

消費面に於ける農民の渴望は衣料品が首位を占め、就中、作業衣、地下足袋の不足を訴えている。先ず衣類、地下足袋の配給は家族員數に比例して割當てるのが一般的である。配給面に於いては地自作、小自作、自小作の順位にあるも、廣狹別に検討すれば經營規模の大きさと稼働人口の増大に比例している（第三六表参照）。

配給方法としては次の三者がある。

(イ) 非農家を含めた一般配給（特に引揚者、復員者への重點配給）

(ロ) 農家全般に對する一般配給

(ハ) 供出報償用としての配給

これら配給量に對する階層別不足量は第三七表を對照することによつて、明かにしうるであらう。即ち配給外購入表に於いては經營規模の擴大に比例して購入量も亦増加している。

第三六表 配給衣料（衣類、地下足袋）

（一戸當平均配給量 單位點數）

平	小	小	自	自	地
均	作	作	作	作	作
一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五
一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六
二	二	二	二	二	二
四	四	四	四	四	四
一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五
〇一反	一一反	一一反	一一反	一一反	一一反
三、五反	三、五反	三、五反	三、五反	三、五反	三、五反
五、七反	五、七反	五、七反	五、七反	五、七反	五、七反
七反以上	七反以上	七反以上	七反以上	七反以上	七反以上
平均	平均	平均	平均	平均	平均

第三七表 配給外購入衣料（衣類、地下足袋）

（一戸平均 單位點數）

平	小	小	自	自	地
均	作	作	作	作	作
一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五
一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六
二	二	二	二	二	二
四	四	四	四	四	四
一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五
〇一反	一一反	一一反	一一反	一一反	一一反
三、五反	三、五反	三、五反	三、五反	三、五反	三、五反
五、七反	五、七反	五、七反	五、七反	五、七反	五、七反
七反以上	七反以上	七反以上	七反以上	七反以上	七反以上
平均	平均	平均	平均	平均	平均

且つ配給面に於いては、小自作、自小作階層が他の階層の一倍半乃至二倍の購入量を示している事を知り得る。尙衣類配給は稼

働人口に比例し家族員數に反比例しているために配給面に於ける小作層に對する配給の僅少なることは、配給外購入に於いてこの層が地自作、自作をオーバーし、自作小作層に接近するという結果を生んでゐる。その傾向は縫糸配給外購入表（第三九表）に於いても確然と立證されるであらう。布地に於いては前と同様な傾向を看取出来るが、尙配給に於いて小作、自作の順で増し、特に三五反小作、五―七反自作及び小自作への配給量は壓倒的である事を指摘しておこう（第四〇表参照）。その動向は配給外に於いては逆轉して小自作、自作、小作の順位にあり、五―七反自作及び小自作層の購入量は他に比べて比較的大きい（第四一表参照）。即ち衣料面に於ける農家の需要動態は前進的農家群にあつては配給面に於いて量的にも相當大なるにも拘らず、尙配給外購入に相當依存しつつある事を知り得るであらう。

第三八表 配給衣料（絲類）

（一戸平均量 單位匁）

	〇―一反	一―三反	三―五反	五―七反	七反以上	平均
地自作	一五〇	三三〇	三三五	八〇〇	一〇〇〇	三三五
自作	三三五	二〇〇	二八三	一〇〇〇	一〇〇〇	三七五
小自作	一	二五〇	三六	三五〇	一	三〇〇
小作	三〇〇	四二三	四六六	一	一	三九三
平均	三五九	三三一	三六六	五〇〇	一〇〇〇	三九

第三九表 配給外購入衣料（絲類）

（一戸平均 單位匁）

	〇―一反	一―三反	三―五反	五―七反	七反以上	平均
地自作	一	五〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	九四
自作	一	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	四六
小自作	一	一	一	一	一	一
小作	一	一	一	一	一	一
平均	一四〇	三三七	三六三	四〇	一〇〇	三三七

第四〇表 配給衣料（布地）

（一戸平均 單位尺）

	〇―一反	一―三反	三―五反	五―七反	七反以上	平均
地自作	九五	二四四	一八〇	三九〇	一	一九五
自作	一	四〇	一三〇	一	一	二二三
小自作	一	六六	一七三	三九五	一	一八八
小作	二六〇	二八九	四三三	一	一	三〇九
平均	一六五	三三六	三三三	六三三	二六〇	三九

第四一表 配給外購入衣料(布地)

(一戸平均 單位尺)

地 自 作	〇一反	一三反	三五反	五七反	七反以上	平均
自 小 作	七〇	三六〇	三九〇	一四〇〇	一	三六〇
自 小 作	一	六五	三四六	一〇四〇	一	三四〇
小 自 作	一	四三	三六〇	一〇四〇	一	三七三
小 自 作	一	三六〇	六〇六	一	一	三七五
平均	三八	二四三	四〇一	一〇四〇	一	三二〇

(2) 日用嗜好品(煙草、酒、鹽、ローソク、マッチ、

醬油、目轉車、部分品、油脂類)

日用嗜好品については先ずその配給外購入費が、ほど經營規模に比例して増加している傾向があることが注意される。

階層別には小自作、地自作、小自作の順位で配給外購入が多、小自作、小自作群の購入額は總購入額の五〇%以上を占めてゐる。殊に七反以上の小自作に於いてはその比重は壓倒的に高い。

第四二表 食料嗜好品總購入費

(一戸平均購入額 單位圓)

地 自 作	〇一反	一三反	三五反	五七反	七反以上	平均
自 小 作	一四・七五〇	一	一	一	一	四・七五〇

指定研究村における必需物資配給實績調査報告

自 小 作	一〇六	三、四二六	五、一〇〇	六、〇〇〇	一	三、三三六
自 小 作	一	二、九九五	三、四四五	一	六、四〇〇	三、七八〇
小 自 作	一〇・九三三	三、〇六六	三、〇〇〇	一	五、二九三	一
小 自 作	三、〇〇〇	六、七	一	一	九八一	一
平均	一、九九五	三、三三〇	二、四〇〇	四、〇〇〇	六、四〇〇	三、〇四四

次に各品目別に検討してみよう。

(イ) 煙草——煙草についても前述の一般的傾向が裏つけられる。

配給外の購入については小自作の比率が群を抜いて高い。即ち五―七反の小自作は七反以上の小自作と共に他を壓している。一般的にみて、煙草は嗜好品たる性格強きため、その購入額は農業經營から来る収入の多少に比例していると言ひ得るであらう。

(ロ) 鹽——鹽に於いては上述の傾向が完全に映し出されている。只小作農に於ける購入量はその配給量に比し相對的に著しい減少を示している事を指摘しておこう(第四三表、第四四表)。

第四三表 鹽配給量

(一戸平均受配量 單位升)

地 自 作	〇一反	一三反	三五反	五七反	七反以上	平均
自 小 作	一八・五	四・〇	八・五	一一・〇	一	三・〇
自 小 作	一四・五	二・六	一	一	一	五・九
平均	一七・六	一	一	一	一	一

小 自 作	四〇〇	九〇〇	三二〇	一〇六
小 作	二一〇	四〇〇	一〇三	
平 均	七八	二一五	一八六	三六〇

第四表 配給外盟購入量

地	自	自	小	小	小	平
作	作	作	作	作	作	均
一五〇	一六〇	二一〇			二六〇	二八〇
一五〇	一六〇	二一〇			二六〇	二八〇
二六〇	二八〇	三七〇		二六〇		二八〇
二六〇	二八〇	三七〇		二六〇		二八〇
四〇〇				三三〇		三六〇
四〇〇				三三〇		三六〇
五〇〇		五〇〇				五〇〇
五〇〇		五〇〇				五〇〇
一五〇	一八〇	二八〇	三六〇	六〇〇	三三〇	三三〇
平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均

(二戶平均購入量 單位升)

(イ) 油—油の配給並びに配給外購入量は先きに述べた一般的傾向を容易に翻取し得るであろう。ここでも小作農の配給面に於ける比重は相對的に大なるにも拘らず、配給外購入量に於いてはその割合は半減している。

(二) 醬油 醬油は農家にとつては本来自給自足の色彩の強いものであるが、近年は麥、豆類、並びに鹽等の不足のため一般に配給購入が行われている。特に配給品購入は小作農において最も多量に購入される。經營規模の擴大に伴つて購入量が減少しており、こ

れは自給率の大小を示すものに外ならぬであらう。

配給外の購入は自小作の下層にやゝ多く見られるも、特に問題にすべき程のものではない。

(ホ) マッチ、ローソク——配給外購入は自作、小自作の上層部に集中している。

(ハ) 味噌——醬油とほど同様な性格でその傾向も同じなるも只三反前後の自作農により多く集中している。

第四五表 味噌配給量

地	自	自	小	小	小	計
作	作	作	作	作	作	
四	四				四	〇二反
一七〇	一七〇				一〇〇	一三反
四七〇〇	四七〇〇		八〇〇		一〇〇〇	三五反
一四〇〇	一四〇〇				一〇〇〇	五七反
						七反
						計
一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇		八〇〇〇		二一〇〇〇	單位圓
					二一〇〇〇	(受配總額)
					一〇〇〇〇	

(受配總額 單位圓)

(F)、油脂類——配給は七反以上の自小作、一一三反の自小作、即ち自小作層により多く、自作農がそれについている。

第四六表 油脂類配給量（一戸平均）

（單位 數量升、金額圓）

	地自作		自作		自小作		小自作		小作		平均	
	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量
〇一反	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一三反	四・〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三五反	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
五七反	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
七反以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平均	四・一	—	八・六	—	三・三	—	二・七	—	二・〇〇	—	三・〇〇	—

(イ) 自轉車部品——自轉車は本村に於いては唯一の交通機關にして、地自作層一戸當一臺、他は殆んど二戸に一臺の割合で保有している（第四七表参照）。

第四七表 自轉車部品購入費（一戸平均）

（單位金額圓）

	地自作		自作		自小作		小自作		小作		平均	
	金額	組	金額	組	金額	組	金額	組	金額	組	金額	組
〇一反	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一三反	一・四〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三五反	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
五七反	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
七反以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平均	一・四〇〇	—	〇・五	—	五・〇	—	—	—	二・四〇〇	—	一・七	—

(ロ) 燈油——配給外購入では經營規模の擴大に應じて増大し、自小作、小自作が大部分を占め、特に三反以上の自小作、小自作に集中している（第四八表）。

(ハ) 木炭——配給外取得は一三反の小作並びに自作に集中しているが、小自作層の比重は壓倒的である（第四九表）。

物資、即ち生産的物資と消費的物資の取得の中にもかなりはつきりと露呈されていた。従つて物資の配給はかかる機構の中で再生産過程を維持、擴張しうるよう計畫、實施さるべきであらう。

(二)

一、T村の概況

T村は福岡縣の南端八女郡のほと中央部を占め矢部川上流の左岸に位置し、對岸の村を経て熊本縣鹿本郡へ通ずる。久留米市より約二〇料、矢部線黒木驛より二料の間にある。

總面積四・八方里、東西凡そ二里、南北二四町の概ね楕圓形をなす村落にして、その大部分は矢部川沿いの平坦部を占め、若干の丘陵地帯を含んでいる。

村は八女郡西部の所謂平坦村と東南北部山間村との接觸地帯をなし、地理的には山村的色彩が強いが、村自體の經濟構造は寧ろ西部平坦村に近似している。勿論山間部と接觸することに依つて、凡ゆる面で關連を持つてゐるが、村の經濟構造の基盤は飽くまで農業が主體をなしている。

村の總戸數七五一戸、總人口四一八六八、一戸當約五・六人を保有している。村の職業並びに人口構成は農家戸數が總戸數の五三%を占め、農家人口は村總人口の六一%に當つてゐる。更に外地引揚者も農家構成の中に吸引される率が相當高い事を豫想されるので、農家比率は漸次増加するであらう。

農業に次いで商工業が戸數において一九%人口數において一七

指定研究村における必需物資配給實績調査報告

%を占めてゐる。これは製材所並びに終戦後設立された簞笥、戸棚、机、椅子等の木工業及び相當大規模な乾燥野菜、澱粉、味噌、醬油等の食品工業に従事してゐる。前述せる處によつて本村が農業を中核體とし生産活動を續けつゝあることを知り得るであらう。

第一表 職業別戸數及人口

(昭和二年二月一日調査)

職業	戸數	比率	人口數	比率
農業	四〇三	五三%	二、五八	六二%
商工業	二二	二九	七〇	一七
自由業	三	五	二五	五
運輸業	一	二	一〇	二
無職業	六	三	三三	九
引揚者	六	九	三八	五
計	七五二	一〇〇	四、一八	一〇〇

第二表 耕地面積

(昭和二年二月一日調査)

種別	面積
水田	一〇一・〇〇町
畑	一四・〇〇町
山林	三二・五町
牧地	一・五町
その他	〇・四町

指定研究村における必需物資配給実績調査報告

本村に於ける水田面積は二〇〇町歩にして、一戸當り平均耕作面積はA村よりやや廣いがしかも尙四・九反を占むるに過ぎない。畑は一三四町を占めたるも一枚當りの面積は極めて狭隘にしてそれも畑畑、茶畑が大半を占め、普通畑は北部丘陵地帯に散在し極めて狭く、土地生産力も亦極めて低位にある。山林牧野は殆んど取上ぐべき程のものはない。

而かも水田、畑共に隣接五ヶ町村よりの入作者が相當多數を占め、それ等の壓迫を受けながら、逆に隣接町村特にA村への畑出作が極めて多い。

第三表 専業別農家戸數

(昭和二年二月一日調)

専業	戸數
兼業	二〇五戸
第一種兼業	一九八
第二種兼業	一四四
第二種兼業	五四

更に農家の専業別構成を見るに専業農家は二〇五戸で農家總戸數の五一%にして、兼業農家が四九%を占め、農家の半數は何等かの形で副業に依存しつつ、農業經營を續けつつある。

第一種兼業農家は五反一・一〇反の階層に凝集、第二種兼業農家にあつてはより零細化し五反以下に蟄集しつつ、主として伐木、木工業等に従事している。特にA村とは産業上より緊密なる連關を保っている。

第四表 階層別農家戸數 (水田)

二一〇

階層別	規模別	五・三反	三・五反	一・一〇反	〇・一五反	〇・一〇反	計
地主兼自作		四戸	三戸	三戸	三戸	三戸	一五戸
自イ自作		三戸	二戸	三戸	三戸	三戸	一四戸
自小自作		九戸	四戸	四戸	三戸	三戸	二七戸
小自作		二四戸	三戸	四戸	三戸	三戸	三七戸
小自作		七戸	三戸	四戸	三戸	三戸	二四戸
計		一〇一戸	一六戸	一六戸	一六戸	一六戸	一六〇戸

さてそれ等農家の階層別構成を検討して見よう。即ち、經營規模別には五反一・一〇反の農家が壓倒的に多く、四二%を占め、農家の範疇に入らざる耕作農家(切替畑、宅地餘裕地等を耕作するもの)六三戸、三反以下の零細規模農家が二〇%でこれに次いでいる。即ち一町以下經營農家が八七%でその大半を占め、一町以上と云う當地方に於ては比較的大規模經營農家は僅かに一三%に過ぎず、本村農家の農業經營が如何に零細化されたものであるか判然たり得るであろう。

土地所有別には小作農家が一一六戸で他を凌駕し、自小作、小自作これに次ぎ、地主兼自作は僅かに一三戸を數えるに過ぎない。しかも本村内部に關する限りに於いては大地主と稱されるものは一戸に過ぎず、それも他村を含んでも六町歩程を所有するに過ぎない。

次に農業資本の構成とその動向を検討して見よう。近年に於ける飼料事情の逼迫と流行病の蔓延から馬の飼育が漸減し、それと對蹠的に牛の飼育が漸増しつつある。

第五表 家畜、家禽飼育数

牛	馬	緬	鶏	兎
八四頭	八〇頭	二六頭	一、〇六五羽	五九六匹
			雌一七五〇 雄一三一五	仔一七七 成一四一九
				(牝二六三 牡一五六)

云うまでもなくT村の經濟構造の基礎は水田經營を中核とする農業にあるが、平均耕作反別が極めて狹隘にして、従つて例へばY部落の如く蔬菜栽培並びに採種業の如く商品化率の高い農産物の生産に漸次移行する態勢にあり、しかも畑作經營に於いては隣接町村への依存度が極めて高い事等がT村農業の性格を特色づけるものであらう。斯る問題點を綜合的に直視するとき、農家經濟は必ずしも農村インフレの波に泳いでいると稱するほどに容易なるものではないであらう。又村財政が近年まで極めて窮迫した状態に進められていたと語る村長の言からも本村のあり方を一應理解し得るであらう。勿論所謂農村インフレの現狀下にあつては農

指定研究村における必需物資配給實績調査報告

林産物の賣行きが良く農家も一時的に現金取得が増加しつつあることは否定出来ない。最近の主要農村生産物の生産高及生産額に關しては精確なる數字を捕捉することは極めて困難なるも、極めて大難把な村統計表からも農家の副業的生産物價格の占める割合が相對的に増加し、所謂農村インフレの環中にあることを推論出来るであらう。併し乍らその事は、自から本村經濟構造並びに農業構造の基本的な線に立脚して觀察する時單にそれ丈のものと言わざるを得ないであらう。

しかも郡平坦地帯と山間地帯の接觸ゾーンと云う特殊な條件が、經濟的にも本村を何れともつかぬ中性的存在となし、純山村のでもなく又純平坦村的とも稱し得ざることは、商工業の占める割合が農村として比較的大きいこと(約一九%)からも端的に指摘し得るであらう。而して本村のかゝる小商工業的動向はインフレの昂進と共に益々高まつて行くのではあるまいか。

第六表 製茶工場

機械製茶工場	手機械製茶場	手製製茶場
計	一〇〇	一四
生産高	四、一〇八貫	
生産額	八八、三五九圓	

指定研究村における必需物資配給実績調査報告

第七表 主要生産物の生産高と生産額

(昭和一九年八月一日調査)

品名	生産高	生産額
玄米	二八〇石	八〇〇,〇〇〇円
麥	一,〇〇〇石	三三〇,〇〇〇
甘藷	六,〇〇〇石	一〇〇,〇〇〇
植	二六,〇〇〇	三〇,〇〇〇
茶	五,〇一八	八,八〇〇
柿	一,五〇〇	一五,〇〇〇
葡萄	一〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
蔬菜	五〇,〇〇〇	一七,〇〇〇
竹製	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇

(註) この數字は農業會調査に依る極めて概算的なものであつて本村農家収入の實狀は遙かに高いものと思はれる。

二 T村に於ける必需物資配給

實態の概況

以上吾々は本村に於ける産業構造とその環中にある農業構造を「瞥するを得た。次に調査対象たる昭和二十一年度(二十一年四月—二十二年三月)における配給状況の實態を探究しよう。

第八表 作付面積と生産供出状況

(昭和二十二年四月調)

品名	作付面積	反當收量	實收高	保有高	餘力	供出量
米	一六町	二・三石	三・五〇石	二・九六石	五三石	一・三三石
麥	一七町	〇・七五石	一・〇〇九	五五八	七三三	七三三
計	三三町	一・四八三	四・五〇九	一・二一〇	三・二九三	三・二九三

先ず米作に就いて検討すれば、一六町(町)の耕作田より三・五三〇石の生産をあげ反收は平均二石二斗に過ぎない。これに對する供出の割當は一・三三三石で實收高の三八%を占め、餘力米は二二・九%にあたり、保有量との關連に於いて検討すれば七五〇石の絕對量不足を來すこととなる。次に農村必需物資の配給に就いて、先ず極めて概括的に、各種目別に配給と自由、闇購入の實狀を提示して見よう。

第九表 T村及びY部落配給品調

配給品目	數	量	對比
化學肥料	Y部落	T全村	對比
有體質肥料	二・〇三	三・三三	九%
生石灰	四・三	二〇	六%
小計	二・六三	三・七六	八%
肥料總額	Y部落に對する配給	肥料總額	四・九四

指定研究村における必需物資配給実績調査報告

[illegible]

配給肥料の總量は二七、六九四貫にして、その他農業會独自の立場に依る闇肥料購入も相當量あり、正式ルートの配給に附加されてゐる。農業會ルートの闇購入肥料は第一〇表と第一一表を對照することに依つて判然たり得るのであらう。即ち闇肥料の購入量も正式配給を上廻る現狀にあり、而かもそれ等の闇肥料も同じく配給肥料として各農家に配分されるのであり、各農家が農家独自の立場に於いて購入する分を加算すれば相當大量なものとなり、農業生産を最低限度に維持する爲にすら農家の荷う負擔は相當に重いものと言わざるを得ない。

第一〇表 配給肥料

第一表 配給外購入肥料

計	生 灰	油 粕 類	石 灰 窯 素	加 里	過 石	硫 安
二七、六四	五、〇〇	一七〇	四、〇〇	二、五〇	四、三〇	一、四八

硫安	一、六〇〇
配合肥料	二、〇〇〇
溜大豆	九、五〇〇
生石灰	五、五〇〇
その他	二、五〇〇
計	一〇、五〇〇

(2) 飼料

第一二表 飼料配給量	探 ⁵ 種用 供出還元	二四貫 三四貫	計	三六八貫
------------	---------------------------	------------	---	------

・飼料の配給は總量三八八貫に過ぎず、採種用二四貫他は供出還元用となつてゐる。これはその配給が微量である上に麥、雜穀等の昨年度供出割當が相當苛酷であつて、殆んど飼料としての餘力を残し得なかつた結果牛馬の飼育に相當困難を來たし、榮養不良と流行病の蔓延に依り斃馬頭數が目立つて増大する現状であり、飼料配給の具體策立案は焦眉の急にあることを指摘して置かう。

(3) 農業藥劑

・農業藥劑としては砒酸鉛、砒酸石灰、除蟲菊乳劑、除蟲菊粉末、デリス粉、銅製劑等一四種類の配給が行われているが、これを乳劑と粉劑に分類すれば、
乳劑 三五七本
粉劑 六九貫六〇〇匁
である。

以上の配給外にプラスト五本、除蟲菊乳劑一石が農業實に依つて購入されている。

(4) 種苗、種畜

第一三表 種子、種苗

品目	配給		配給外	
	數	金額	數量	金額
蔬菜種子	一、六六六本	二、二六四	七五五本	四、九三三
馬鈴薯	三、三三三本	六、八〇〇	一	一
甘藷苗	一、〇〇〇本	一、四〇〇	一	一

種苗に就いては蔬菜種子のみが配給外に購入されている。農業會を通じての種子の配給は時期遅れとなることが多く各農家は自家生産品、及自由購入に依存する。現状であり、殊に蔬菜種子の價格暴騰は自家採種の傾向に拍車をかけてゐる。仔牛、山羊、羊等の家畜飼育費は極めて旺々なるも、今の處種畜の配給は全然ない。特に全般的に仔山羊の分讓を要望している。

(5) 農機具

・農機具にあつては購入總額九、五九一、六一・一七圓と云う巨額に達するも、總じて各農家が村内の鍛冶屋に依存する傾向が支那内である。この事に就いては所謂配給農機具が間に合はなかつた。土地條件を全然考慮に入れない粗悪品が多いため、安品より高い野鍛冶へと云うことになる。

第一四表 配給農機具

品目	數	金額
播種機	一〇、九〇〇本	一七、九〇〇
鋤	一〇	一三・一〇
移植	一〇	四三・三〇
犁	七六	一、三三九
犁	三五	一〇、一六〇
土入	五〇	三、四二〇
馬	三	六三・五〇

動力脱穀機	石油發動機	押麥機	芋切機	唐箕	鞍骨	竹皮笠	牛はなぎ	溫床用寒暖計	計
一本	一	一	一	一	一	一	一	一本	
二〇九・七五	四〇〇・〇〇	六、二〇〇・〇〇	二〇〇・〇〇	四〇〇・〇〇	一四〇・〇〇	四〇〇・〇〇	三〇〇・〇〇	七五〇・〇〇	三、四一五・一七

第一五表 配給外農機具

品目	數	量	金額
除草機	六	本	九、五七〇・〇〇
鋤機	三	本	二、四〇〇・〇〇
土入機	一	台	七、三〇〇・〇〇
犁	五	枚	六五〇・〇〇
鐵線	二	本	六六〇・〇〇
鋸	六	本	一、九七五・〇〇
鉋	一〇	五	五、七三〇・〇〇
二本鉋	七	本	二、四〇〇・〇〇

指定研究村における必需物資配給実績調査報告

三本鐵	ヤスリ	肥料桶	ミノ	フル	庖丁	田植繩	計
二本	一〇〇	三	一	一	一	五	
一、二五〇・〇〇	一、四〇〇・〇〇	二、八五〇・〇〇	一五・五〇	六、八九〇・〇〇	三六〇・〇〇	七五〇・〇〇	四、一〇一・〇〇

(6) 自轉車 (タイヤ、チューブを含む)

自轉車の配給は最近一毫もなく、タイヤ、チューブ等は田舎の所謂唯一の交通機關としてその利用度と欲求度は極めて熾烈なるも、その配給たるや欲求を充足し得ざる極めて不満足なるものにして、衣料と共に困り切つてゐる品目の一つであつたが、最近スト資金等としてE市のゴム會社等から放出された品物の購入により、何とか格好のつく形に移行しつゝあることを附記しておく。

第一六表 自轉車部分品配給

配給	數量	金額	配給	數量	金額
外	一本	一、二五〇・〇〇	給	一本	一、二五〇・〇〇
給	一本	一、二五〇・〇〇	配	一本	一、二五〇・〇〇
外	一本	一、二五〇・〇〇	給	一本	一、二五〇・〇〇

ズ・ル・チン 一元六六円 (供米報償)

第一八表 配給外購入品、

品 目	数	量	金 額
鹽		三、五〇〇 匁	三八、八四
ソ		四斗	卅〇
酢		二〇	九、〇〇〇

農家の大部分は今尙自給經濟を立前とし、味噌、醤油の自家醸造を行いつつあつたが、昨年度に於いては麥供出後、手持の麥ストツクが極めて少く、加えて鹽の配給或いは闇購入品が殆んど入手出來ず、自家醸造は餘り行われなかつた。従つて農家の鹽に對する欲求は調味料の自家製造用、漬物用として相當熾烈にして農業會職員幹部に依る鹽の配給外購入も本年春頃より大量的に、福岡、佐賀縣方面の製造業者より、或いは鹿児島方面より入り込む闇商人の手を経由し個人で購入する量も亦極めて多い。その中で農業會經由は現金にして一升四二圓から五〇圓程度、鹿児島方面の闇商人の手から入手するものは最初は殆んど米との交換で而かも交換價值も高く鹽一升に米一升と云うのが普通であつたから、各農家のストツクが潤澤になるにつれてその欲求が低下し、鹽一升に米或いは麥五合迄になつて來た。最近に至つてはその需要も弱まり農家の方で見送りの状態にある。

指定研究村における必需物資配給実績調査報告

(9) 燐寸、木炭等
第一九表

燐寸、木炭等	配 給		配 給 外	
	数 量	金 額	数 量	金 額
燐寸	二、三〇〇 匁	三、五六、四三		
木炭	三、〇〇〇 匁	三、〇〇〇		
ロケット (供米用)	三、〇〇〇 匁	五、〇〇〇		
燐寸			代用	五、〇〇〇
木炭			燐寸	五、〇〇〇

木炭は生産地と隣接する關係上殆んど闇購入は行われてない。(10) 鍋、釜、辨當箱等の日常生活必需品

これ等の品物は闇市場並びに地方小賣店にいくらでも販賣しているのと、裸一貫の外地利揚者を優遇する意味合いから一般には殆んど配給なく、すべて個人購入に依つてゐる。

(11) 油 類

燈油、エステル、溫床油、マシ油等油類配給總量は二、四五七・七リットル、金額にして二、九六三・四八圓を占めてゐる。闇購入も隨時、隨所に行われてゐるが、それは或る特定の餘力ある農家か又はヤミブローカー的兼業農家に限られてゐる。

以上繰述せし所に依つて村の物資配給實態の概況を一瞥するを得たであらう。しかしこの村でも、現在の窮迫せる時局下配給物資の不足から闇購入、自由購入が益々旺んに行われつつあることは否定しえない。

指定研究村における必需物資配給実績調査報告

反當配給量	小 白 作			小 自 作			單位 費
	平均	小 作	白 作	平均	小 作	自 作	
	一、四、四六三、五五〇	一、三、七六九、〇三三	一、〇、九三三	一、八、五五二、二二八	一、〇、五〇二、一〇八	一、八、四八七、三三二	一、〇、〇〇〇、三、七三三
	一、四、四六三、五五〇	一、三、七六九、〇三三	一、〇、九三三	一、八、五五二、二二八	一、〇、五〇二、一〇八	一、八、四八七、三三二	一、〇、〇〇〇、三、七三三
	一、四、四六三、五五〇	一、三、七六九、〇三三	一、〇、九三三	一、八、五五二、二二八	一、〇、五〇二、一〇八	一、八、四八七、三三二	一、〇、〇〇〇、三、七三三

配給は耕作反別を基礎におき、それに供出量に對する報償用を從とするものであるから、反當の施肥量を増大せしむる鍵は供出能力の比重、したがつてその基礎たる生産力の比重にのしかゝつてゐる。換言すれば經營規模の廣狹に條件づけられてゐると言ひ得るであらう。

自作農を除き、各階層共經營規模が擴大するに從つて配給量は比例的に増加し、又全體の反當平均配給量を檢討するとき、五反以上はおしなべて平均配給量を上廻り、小自作小作の五反以下は平均的水準以下を示している。以上は配給肥料のみを問題にした場合であるが、更に厩肥料購入について検討してみよう。いふまでもなく、當地方においても農民の肥料に對する欲求は寔に熾烈

二二〇

なるものもあるも、その配給割當たるや欲求を満足させるには程遠く、農業會並びに農民は獨自な立場に於いて各種各樣の方法を以て厩肥料を購入して、配給量の不足を補つてゐる。

第六表 厩購入肥料（石灰を除く）

（昭和二年六月一八日調）

反當平均	小 白 作			小 自 作			單位 費
	平均	小 作	白 作	平均	小 作	自 作	
	一、四、四六三、五五〇	一、三、七六九、〇三三	一、〇、九三三	一、八、五五二、二二八	一、〇、五〇二、一〇八	一、八、四八七、三三二	一、〇、〇〇〇、三、七三三
	一、四、四六三、五五〇	一、三、七六九、〇三三	一、〇、九三三	一、八、五五二、二二八	一、〇、五〇二、一〇八	一、八、四八七、三三二	一、〇、〇〇〇、三、七三三
	一、四、四六三、五五〇	一、三、七六九、〇三三	一、〇、九三三	一、八、五五二、二二八	一、〇、五〇二、一〇八	一、八、四八七、三三二	一、〇、〇〇〇、三、七三三

厩肥料の購入は一般に、より下層、特に小自作、小作の五反以下経営農家に多く、経営規模別にみれば三反―五反階層に最も多い。また自作、小自作農家にあつても全般的に厩肥料が相當大幅に行われているが、上層にゆくに従つてその購入量が減少してゆく傾向にある。更に小自作、小作の最上層および地自作は全く厩肥料を行つていない。

要約すれば金肥の反當投下量に於いて小自作、小作の下層はその大部分を厩肥料に依存し、自作、小自作は大部分を、地自作及小自作、小作の最上層はその全部を配給肥料に依存しつゝ、経営を續けつゝある。

この事實のうちから吾々はインフレの魔術を讀みとり得るであらう。即ち專業農家として供出の對象物たる、米、麥の生産に熱中する農家にあつては、その供出による収入によつて厩肥料の購入を行ふ餘力がない。それに反し、より零細なる兼業農家にあつては例へば運搬業等日に六〇〇圓前後の収入を上げつゝあり、それらの人々にとつては自家飯米をより多く確保するためには一俵二、〇〇〇圓乃至三、〇〇〇圓の硫安も容易に購入出來得るのである。

第二七表 反當金肥投下量（石灰を除く）
（昭和二十二年六月調）

地	自作	〇一反	一三反	三五反	五七反	七反以上	平均
		一	一	七	一	一	七

指定研究村における必需物資配給実績調査報告

自作	小作	小作	小作	平均
一六、八四三、五三三	一三、五〇二、二八四	一、二九七	一、二九七	一、三三三
一、二九七	一、二九七	一、二九七	一、二九七	一、二九七
一、二九七	一、二九七	一、二九七	一、二九七	一、二九七
一、二九七	一、二九七	一、二九七	一、二九七	一、二九七
一、二九七	一、二九七	一、二九七	一、二九七	一、二九七
一、二九七	一、二九七	一、二九七	一、二九七	一、二九七
一、二九七	一、二九七	一、二九七	一、二九七	一、二九七
一、二九七	一、二九七	一、二九七	一、二九七	一、二九七
一、二九七	一、二九七	一、二九七	一、二九七	一、二九七
一、二九七	一、二九七	一、二九七	一、二九七	一、二九七

反當金肥投下量は経営規模の擴大とともに増大しており、同時に供出負擔力に正比例しているが、反當投下勞働量とは反比例している。併し乍ら金肥投下量の増加が必ずしも反當收量の増加と結びつき得ざる事を指摘して置こう。即ちそこには經營意欲と共に經營技術或いは牛馬飼育によつて生産される基本的肥料たる堆厩肥の投下量が又問題たり得る。配給に對する厩肥料の指數を表示すれば第二八表のごとくである。

第二八表 配給肥料に對する厩肥料の指數
（配給肥料を一〇〇とす）

地	自作	自作	自作	自作	平均
〇一反	一	一	一	一	一
一三反	一	一	一	一	一
三五反	一	一	一	一	一
五七反	一	一	一	一	一
七反以上	一	一	一	一	一
平均	一	一	一	一	一

指定研究村における必需物資配給實績調査報告

(2) 飼料

第二九表 一戸當り飼料配給及び關購入量

(昭和二十一年六月二十八日調)

地自作 關配	麥	麥、麥カス等						單位 升
		平 均	小 作	小 自作	自 小作	自 作	地 自作	
		關配	關配	關配	關配	關配	關配	〇一反
		四六	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	一三反
		三九	一五	四〇	三八	五一	〇五	三五反
		四三	九五	四〇	三八	五一	〇五	五七反
		〇八	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	七反以上
		三・五	二・九	六・五	一〇・〇	四・一	〇・五	平均

平 均	小 作	小 自作	自 小作	自 作
關配	關配	關配	關配	關配
八・八	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
〇〇	一〇・四	二・五	〇〇	二・五
一六七	二九・一	〇〇	〇〇	三・五
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二四・四	四七・九	七・七	九・六	二七・八

(註)

麥、麥カス等
配給總量

關購入量

麥配給總量

關購入量

(關購入總額

一三・二升……一戸平均 (二・九升)
一五・五・四升 一戸平均 三・五升
一・一五〇貫 一戸平均 四七・九貫
一・一〇〇貫 一戸平均 二四・四貫
一三・八七〇圓、一戸平均三〇・八(二圓)

飼料(麥、麥カス等)の配給は極めて微量にして一戸當り約二・九升到過ぎず、關購入がより多い。關購入量は配給の約半量を示している。兩省共上層農家には殆んど配給なく又此の階層は保有米確保に依つて殆んど自給自足出來關購入は行われていない。關購入が比較的下層農家に多いことは米麥保有量が僅少であ

(3) 農業藥劑

第三〇表 一戸當り農業藥劑配給量

(單位 呎)

[illegible]

(註) 配給總量 九、八九四匁(一、四三三・七九匁)
配給外總量 三、四二五匁(四、二四二・〇〇匁)

農業藥劑の配給量は經營規模と比例し配給外購入は五・七反の指定研究村における必需物資配給実績調査報告

階層により多く、七反以上農家は特 少い。この事は農業獎勵の
使用が當地方に於いては園藝作物に限られている關係によるので
あり、耕作地保有の渺い農家に蔬菜、果樹栽培が相當旺んに行わ
れているためである。配給外購入は數量に於いて配給の三四%金額
に於いて三倍を占め、闇價格は八倍を標示している。

(4) 種苗、種畜

第三一表 種子物配給量

(昭和二二年六月一八日調)

[illegible]

六九ヶ(一、三七二回)

一五ヶ

二二・三升（八〇一・五圓）

一、五升

三・五圖

大・小

2017

は配給の

圧資材の

得るで

求を満

復之

六、五

夢

入戶

—

反
五

+	+
---	---

00-1

1. CH₃OH

• 五五五

11-02

[illegible] $\frac{3}{2}$

子

市物登西

指定研究村における必需物資配給実績調査報告

[illegible]

第四三表 衣料品配給及闇購入一戸平均額

然るに配給は質量共に農民の欲求を満足せしめず、勢い値段は廉いが、使い物にならない配給物で腹を立てるより高價でも丈夫で使い良く能率的な野鍛冶の製造を、泣く泣く買う現状である。

農器具の關聯購入は配給の二倍以上を占め、石油は約三分の一を示している。農器具の關聯購入費は配給の一五倍以上と云う高價を示し、戰時中より減らされた生産資材の復舊に農民の欲求か如何に熾烈なるものがあるか判然たり得るであらう。

衣料の配給は總額六、九四五圓、一戸平均一五・六五圓を數へ、階層別家族構成成員數表を對照して吟味すれば概ねそれに正比例する。但し地自作の家族員數は最も多いが、配給は極めて少く、閑購入も亦全く無い事は、それら階級が尙衣料不足に直面しおそれることを示すものであらう。

閑購入も概ね家族員數に比例し、特に五反以上耕作業家により多く、階層別には配給量では小自作、小作、自小作の順位にある。に對し、閑購入では自作、小自作、自小作、小作の順位にある。尙直接農作業に必要な作業衣、地下足袋の不足が農民の側からしきりに叫はれつゝあるが、その相關々係を検討すれば、

	配給品(A)	關聯購入品(B)	比率(A/B)
作業衣	三四着	五〇着	一四・七—一%
地下足袋	三二足	七五足	二三四・四%

を示し關聯購入が配給の一・五倍——一・五倍近くを表示し、その充足は供出問題、生産増強との關連に於いて一考を要するものと考えらる。

[illegible]

(7) 食糧、嗜好品（酒、煙草を含む）

第四表 食糧嗜好品等一戸平均購入金額

〔昭和二年度〕

地 自 作	自 小 作	自 小 作	小 自 作
一〇一反	一三反	三五反	五七反
一六〇〇	三九〇〇	四六〇〇	五七〇〇
一六二七	二五三四	三六〇〇	四六〇〇
一六六〇	四六〇〇	五七〇〇	六八〇〇
一六八七	五七〇〇	六八〇〇	七九〇〇
一七二〇	六八〇〇	七九〇〇	九〇〇〇
一七四七	七九〇〇	九〇〇〇	一〇一〇〇
一七八〇	九〇〇〇	一〇一〇〇	一一二〇〇
一八〇七	一〇一〇〇	一一二〇〇	一二三〇〇
一八四〇	一二三〇〇	一三四〇〇	一五〇〇〇
一八六七	一三四〇〇	一五〇〇〇	一六二〇〇
一九〇〇	一五〇〇〇	一六二〇〇	一七四〇〇
一九二七	一六二〇〇	一七四〇〇	一八六〇〇
一九六〇	一七四〇〇	一八六〇〇	一九八〇〇
一九八七	一八六〇〇	一九八〇〇	二〇〇〇〇
二〇二〇	一九八〇〇	二〇〇〇〇	二〇二〇〇
二〇四七	二〇〇〇〇	二〇二〇〇	二〇四〇〇
二〇八〇	二〇二〇〇	二〇四〇〇	二〇六〇〇
二一〇七	二〇四〇〇	二〇六〇〇	二〇八〇〇
二一四〇	二〇六〇〇	二〇八〇〇	二一〇〇〇
二一六七	二〇八〇〇	二一〇〇〇	二一二〇〇
二二〇〇	二一〇〇〇	二一二〇〇	二一四〇〇
二二二七	二一二〇〇	二一四〇〇	二一六〇〇
二二六〇	二一四〇〇	二一六〇〇	二一八〇〇
二二八七	二一六〇〇	二一八〇〇	二二〇〇〇
二三二〇	二一八〇〇	二二〇〇〇	二二二〇〇
二三四七	二二〇〇〇	二二二〇〇	二二四〇〇
二三八〇	二二二〇〇	二二四〇〇	二二六〇〇
二四〇七	二二四〇〇	二二六〇〇	二二八〇〇
二四四〇	二二六〇〇	二二八〇〇	二三〇〇〇
二四六七	二二八〇〇	二三〇〇〇	二三二〇〇
二五〇〇	二三〇〇〇	二三二〇〇	二三四〇〇
二五二七	二三二〇〇	二三四〇〇	二三六〇〇
二五六〇	二三四〇〇	二三六〇〇	二三八〇〇
二五八七	二三六〇〇	二三八〇〇	二四〇〇〇
二六二〇	二三八〇〇	二四〇〇〇	二四二〇〇
二六四七	二四〇〇〇	二四二〇〇	二四四〇〇
二六八〇	二四二〇〇	二四四〇〇	二四六〇〇
二七〇七	二四四〇〇	二四六〇〇	二四八〇〇
二七四〇	二四六〇〇	二四八〇〇	二五〇〇〇
二七六七	二四八〇〇	二五〇〇〇	二五二〇〇
二八〇〇	二五〇〇〇	二五二〇〇	二五四〇〇
二八二七	二五二〇〇	二五四〇〇	二五六〇〇
二八六〇	二五四〇〇	二五六〇〇	二五八〇〇
二八八七	二五六〇〇	二五八〇〇	二六〇〇〇
二九二〇	二五八〇〇	二六〇〇〇	二六二〇〇
二九四七	二六〇〇〇	二六二〇〇	二六四〇〇
二九八〇	二六二〇〇	二六四〇〇	二六六〇〇
三〇〇七	二六四〇〇	二六六〇〇	二六八〇〇
三〇四〇	二六六〇〇	二六八〇〇	二七〇〇〇
三〇六七	二六八〇〇	二七〇〇〇	二七二〇〇
三〇〇〇	二七〇〇〇	二七二〇〇	二七四〇〇
三〇二七	二七二〇〇	二七四〇〇	二七六〇〇
三〇六〇	二七四〇〇	二七六〇〇	二七八〇〇
三〇八七	二七六〇〇	二七八〇〇	二八〇〇〇
三一二〇	二七八〇〇	二八〇〇〇	二八二〇〇
三一四七	二八〇〇〇	二八二〇〇	二八四〇〇
三一八〇	二八二〇〇	二八四〇〇	二八六〇〇
三一〇七	二八四〇〇	二八六〇〇	二八八〇〇
三二〇〇	二八六〇〇	二八八〇〇	二九〇〇〇
三二二七	二八八〇〇	二九〇〇〇	二九二〇〇
三二六〇	二九〇〇〇	二九二〇〇	二九四〇〇
三二八七	二九二〇〇	二九四〇〇	二九六〇〇
三三二〇	二九四〇〇	二九六〇〇	二九八〇〇
三三四七	二九六〇〇	二九八〇〇	三〇〇〇〇
三三八〇	二九八〇〇	三〇〇〇〇	三〇二〇〇
三四〇七	三〇〇〇〇	三〇二〇〇	三〇四〇〇
三四四〇	三〇二〇〇	三〇四〇〇	三〇六〇〇
三四六七	三〇四〇〇	三〇六〇〇	三〇八〇〇
三五〇〇	三〇六〇〇	三〇八〇〇	三〇〇〇〇
三五二七	三〇八〇〇	三〇〇〇〇	三〇二〇〇
三五六〇	三〇〇〇〇	三〇二〇〇	三〇四〇〇
三五八七	三〇二〇〇	三〇四〇〇	三〇六〇〇
三六二〇	三〇四〇〇	三〇六〇〇	三〇八〇〇
三六四七	三〇六〇〇	三〇八〇〇	三一〇〇〇
三六八〇	三〇八〇〇	三一〇〇〇	三一二〇〇
三七〇七	三一〇〇〇	三一二〇〇	三一四〇〇
三七四〇	三一二〇〇	三一四〇〇	三一六〇〇
三七六七	三一四〇〇	三一六〇〇	三一八〇〇
三八〇〇	三一六〇〇	三一八〇〇	三二〇〇〇
三八二七	三一八〇〇	三二〇〇〇	三二二〇〇
三八六〇	三二〇〇〇	三二二〇〇	三二四〇〇
三八八七	三二二〇〇	三二四〇〇	三二六〇〇
三九二〇	三二四〇〇	三二六〇〇	三二八〇〇
三九四七	三二六〇〇	三二八〇〇	三三〇〇〇
三九八〇	三二八〇〇	三三〇〇〇	三三二〇〇
四〇〇七	三三〇〇〇	三三二〇〇	三三四〇〇
四〇四〇	三三二〇〇	三三四〇〇	三三六〇〇
四〇六七	三三四〇〇	三三六〇〇	三三八〇〇
四〇〇〇	三三六〇〇	三三八〇〇	三四〇〇〇
四〇二七	三三八〇〇	三四〇〇〇	三四二〇〇
四〇六〇	三四〇〇〇	三四二〇〇	三四四〇〇
四〇八七	三四二〇〇	三四四〇〇	三四六〇〇
四一二〇	三四四〇〇	三四六〇〇	三四八〇〇
四一四七	三四六〇〇	三四八〇〇	三五〇〇〇
四一八〇	三四八〇〇	三五〇〇〇	三五二〇〇
四二〇七	三五〇〇〇	三五二〇〇	三五四〇〇
四二四〇	三五二〇〇	三五四〇〇	三五六〇〇
四二六七	三五四〇〇	三五六〇〇	三五八〇〇
四三〇〇	三五六〇〇	三五八〇〇	三六〇〇〇
四三二七	三五八〇〇	三六〇〇〇	三六二〇〇
四三六〇	三六〇〇〇	三六二〇〇	三六四〇〇
四三八七	三六二〇〇	三六四〇〇	三六六〇〇
四四二〇	三六四〇〇	三六六〇〇	三六八〇〇
四四四七	三六六〇〇	三六八〇〇	三七〇〇〇
四四八〇	三六八〇〇	三七〇〇〇	三七二〇〇
四五〇七	三七〇〇〇	三七二〇〇	三七四〇〇
四五40	三七二〇〇	三七四〇〇	三七六〇〇

總計	一八、四〇四・九五圓	一戸平均	四〇八・九九圓
----	------------	------	---------

食糧嗜好品の配給は主に家族員數を基礎とする。味噌醬油の調味品は自家製造によるものも相當多く、そのために鹽の需要は極めて高い。さてその鹽配給（大部分は農業會購入に依る）は五石三升、個人の闇購入が約五石七斗を示しその欲求の熾烈さを知り得るであらう。

(8) 其の他

タイヤ・チュープの配給は總數二三本、約二戸に一本の割合で配給されその殆んど大部分が上層貴家に配給されている。これは自轉車所有とその購入代金との關連に於て決定されたものであらう。

闇購入は總數六八本、配給の約二倍を示している。木炭の配給

は産地に近い關係上一戸當約一俵に満たない程度であつて、闇購入並びに自家製炭を主とする。

マツダの配給は一戸平均二・七箱である。これら及び其の他の雑貨類の闇購入總額は五六、八九三圓、一戸平均一、二六四圓を示している。

(福岡縣駐在研究員)